

經濟論叢

第一卷

雜錄

- 下層金融と國民性
- 英吉利ノ農政問題(二)
- 米ノ豐凶と米價
- まるさず人口論初版以下各版ノ差異

報 雜

- 佛國ニ於ケル人口趨勢ト之ニ對スルノ政策
- 對露貿易伸張ノ餘地
- 電氣事業ノ國家獨占
- 職業ノ分岐併合ノ一例
- 穗積博士還曆祝賀會
- れきしす教授逝ク
- 帝國人口統計ノ描畫圖

五

版
禁
轉
載

法學博士	講師	助教授	法學博士
河上	高田	河田	神戶
肇	保馬	嗣郎	正雄

法學博士	助教授	法學博士	法學博士	法學博士	教授
神戶正雄	河田嗣郎	神戶正雄	本庄榮治郎	小川郷太郎	財部靜治

夫婦婚姻年齡ノ組合セ

教 授 財 部 靜 治

婚姻ニツキテモ出生、死亡ニ於ケルカ如ク詳細仔細ノ研究ヲ遂クルコト重要ナリトハ夙ニ學者ノ唱ヘシ所ナルカ之ヲ實際ニツキテ見ルモ特ニ統計材料ノ整理製表事務ヲ中央統計機關ニ集中シテ行フコト發達スルニ從ヒ結婚者ノ大數ニ付配偶上ノ身分其他數特徵ノ相違ニ依ル細別ヲ示スコトトナレルノミナラス之カ年齡別ニツキテモ單純ニ新夫又ハ新婦ノ一方ニ付其年齡別ヲ示スノミニテ足レリトセス毎歲又ハ各年齡級ノ兩性結婚者カ相互ノ間如何ニ組合サルルカヲ示スニ努ムルコトトナリヌ現ニ我國内閣統計局ノ編纂ニ係ル「日本帝國人口動態統計ハ之ニ關スル數表ヲ掲ク唯製表及出版ノ便宜ヲ鑑ミタルカダメカ毎歲別ハ夫又ハ妻ノ一方ニツキテ示セルノミニテ新婚夫婦年齡ノ組合セニツキテハ毎五歲級ニ分チテ表示セルニ過キス研究材料トシテ之ヲ利用スルノ便益ヨリセハ後者ニ付キテモ同シク毎歲別備ハルニ如カスト雖モ一地方自治體ノ統計ニ對シテハイ

サ知ラス全國ノ統計ニツキテ深ク之ヲ實ムルハ酷ナルヘシ。

夫婦婚姻年齢ノ組合セニ關スル統計表ノ實用トシテ結婚ノ心理作用研究ニ資スル點アルハ特記スルノ値アリ詳言スレハ吾人ハ諸年配ノ男女間ニ於ケル縁談ヲ成立セシムヘキ諸事由ノ力ノ強弱ハ新婚夫婦年齢ノ諸組合セ相互ノ比ニ反映セラルト假定シ得ヘク從ヒテ又夫婦年齢ノ一組合セラシテ他ノ可能ナル諸組合セニ比シ數量上秀イテシムヘキ諸事由ノ強弱ハ組合セ婚姻年齢ノ統計表ニヨリ測定シ比較スルヲ得ヘシ而シテ是等ノ諸事由ハ配偶者ノ一方ノ一年齡級ト相手方ノ一年齡級トノ間ニ存スル婚姻ノ傾キナル一概念中ニ總括シ得ヘキモ其際右婚姻ノ傾キニヨリ言下ニ戀愛ノ傾キヲ推測スヘキニ非ルハ自明ナリ婚姻ナル出來事ニ關スル傾キニ過キサルヲ以テ配偶者間ニ於ケル戀愛ノ傾キモ亦之ニヨリ示サルヘシト率直ニ解シ得ヘキニ非ス一婚姻ニ關スル傾キハ幾多ノ事項ニヨリテ決定サルヘク戀愛モ夫等諸事項中ニ加ハリテ重キヲナスコトアルヘク恐ラクハ又之アルコト當然ナルヘキモ必ス之アルヲ要ストスル能ハス戀愛ヲ唯一ノ動機トシテ過去ニ成立シ又現ニ成立スル婚姻ハ現代ニ於テ甚タ少キコトハ計數ニ

ヨリテトハ言ヒ兼ヌルモ一般ニ實證シ得ヘキ所ナリ要スルニ吾人ハ單ニ一定ノ婚姻年齡組合セニ關スル傾キ又ハ傾向アリトノミ議シ得ヘク而モ亦單ニ結婚當事者其人タケノ傾キニ止マラス其緣談ニ關與シテ之ヲ決定スヘキ人々乃チ當事者ノ両親後見人、親族等ノ意向ヲモ發露セシムルノ傾キタル場合尠カラス。

本邦婚姻ノ實際計數ヲ解拆シ右傾キノ程度ヲ比較研究スルハ研究ノ順序トシテ當然踏ムヘキ途ナルモ今姑ラク之ヲ略シ特ニ茲ニ注意セント欲スルハ現實ニ成立セル婚姻年齡別ヲ單純ニ比較スルノミニテハ右傾キノ程度ヲ明確ニ測定スルノ望十分ニ充タサレサルコト之ナリ換言スレハ夫婦年齡諸組合セノ實現數ト當該組合セラ生マシメ得ヘキ可能總回數トヲ比較スルヲ要ス凡テ動態計數ノ意義ハ之ニ關聯セル靜態計數ト聯絡ヲ計リ研究スル場合ニ發揮セラルルハ殆ント説明ヲ俟タサル所現ニ出生、死亡、婚姻等ノ步合ヲ究ムル場合世人ハ普通ニ意識的無意識的ニ此主旨ヲ貫キツアルモ多クノ場合特ニ一動態計數ノ內部構成ニ其研究ヲ及ホスト共ニ不知不識此點ヲ看過スルコト尠カラズ婚姻年齡別ノ研究ニツキテ前記ノ注意ヲ促セルハ恰セ之カ研究上有看過ノ一例ニ供シ得ヘキモノアレ

ハナリ婚姻率ニツキテモ比例算出ノ基本ヲ滿一五歳以上ノ無配偶者ニオクヘシトスルハ畢竟右ノ趣旨ニ忠ナラントシテ起レル所唯一部學者ノ如ク此算法ニヨレル婚姻率ヲ以テ婚姻ノ蓋然數ナリトナスハ不穩當ノ嫌アリ世ニハ滿一五歳以下ニシテ結婚スル者アルト共ニ一五歳以上ナル男女中ニハ事實結婚ノ能力ナク又ハ其意志ナキ者アリ從ヒテ一五歳以上無配偶者ヲ限リテ得タル計數ハ必スシモ確實ニ婚姻ノ可能回數ヲ代表ストスルコト能ハサルヲ以テ此數ニ本ツキ算定スル婚姻率ヲ以テ婚姻ノ蓋然程度ヲ示シ得ヘシトセハ總人口ニ基ツキテ算定スヘキ普通婚姻率ニ就キ全然同様ノ性質ヲ否定スヘキ謂ハレナケレハナリ而モ亦右算法ニヨルトキハ總人口ヲ本トスル場合ニ比シ婚姻現象ト一層密接ノ關係アル人員ヲ本トスルカ故ニ婚姻ノ蓋然程度ヲ示ス數トシテ割合ニ確實ナル數ヲ得ヘキハ否定シ難シ更ニ婚姻年齡別ニ及ホシテ考フルニ前記研究ノ趣旨ヲ推シ男女別々ニ各齡婚姻數ヲ同年齡ノ無配偶者數ニ比較シ依リテ各齡婚姻精率トモ呼ビ得ヘキモノヲ算定シ得ヘク或ハ又一層精密ナル計算ニヨルコト、シ恰モ死亡ノ研究ニ於ケルト同様同生年者又ハ一定年次ニ能婚期ニ入レル者ノ總員ヲ基礎ト

シ其總員中逐年死亡シ行ク割合ヲ問フト共ニ結婚スル者ノ割合ヲ研ムルカ如キ方法ヲトリ得ヘキモ特ニ本研究ニ於テ問ハントスル所ハ婚姻年齡ノ組合セ研究上婚姻ノ總可能ヲ酌量スヘシトスル點ナリ實ニ新夫婦間一年齡組合セ實現サルルコト割合ニ頻繁ナルノ事實ヲ知ルノミニテハ其組合セニ關スル婚姻ノ傾キ割合ニ強シトスルヲ得スカク斷スルタメニハ實現數トソノ可能回數トノ比例上割合ニ頻發セルノ事實アルヲ明カニスルヲ適當トスヘクカカル計算ニヨルカタメニ年齡級低キ程其構成人員モ割合ニ多ク又一般ニ有配偶者モ少キノ事實ヲ酌量スルコトトナルヘシ今假リニ三〇歳ノ男一二〇アリ之ニ對シ三〇歳ノ女九〇并ニ三五歳ノ女六〇アリトシ其男女間ヨリ六〇ノ婚姻ヲ生ムモノトセンニ三〇歳ノ女并ニ三五歳ノ女ヲ相手トシテ結ハレタル婚姻數三六對二四即チ三對二ノ比ハ右傾キノ不同ヲ意味セスシテ寧ロ其齊一ヲ意味スヘシ略言スレハ右傾キノ測定ハ可能ノ總回數ヲ不問ニ付シテハ之ヲ遂ケ兼ヌヘシ。

上述ノ如キ測定上可能ノ總回數ヲ不問ニ付シ難シト言ヘハトテ一面之ヲ問フコトニコリ常ニ確實ノ結果ヲ擧ケ得ヘシトノ結論ハ生セス蓋シ可能ナル諸組合

セ回数ヲ斟酌シテ計算上決定セルモノヲ以テ言下ニ實地研究上ノ軌範ニ供シ得ヘシト限ル能ハス單純ニ諸組合セヲ構成スヘキ諸元素ノ數量關係ニヨリテノミ算定サルヘキ蓋然數ハ實際上其諸組合セノ一ニ歸スヘキ經驗蓋然數ニ必然一致スヘシトスルヲ得ス實際ニアリテハ右計算ノ結果ヲ紊スヘキ特別事由アルカタメニ經驗蓋然數ハ計算上豫期シ得ヘキ蓋然數ヨリモ多ク又ハヨリ少シトスヘキコトアレハナリ一例ヲ借リテ之ヲ明カニセンカ今假リニ一學者アリ耶穌教員ナル一國ニ就キ新舊教徒間離婚ノ頻稀ヲ研究スルコトトシ

- 一、夫 加特力教 妻 加特力教
- 二、夫 同 妻 新 教
- 三、夫 新 教 妻 加特力教
- 四、夫 同 妻 新 教

ノ四組合セ婚姻ノ頻稀比較ノ計算ヨリ生スル軌範ニ照シ右離婚ノ頻稀ヲ測定シ離婚ノ場合ハ舊教又ハ新教同教徒間ノ婚姻ニ比シ割合ニ多カルヘキコトヲ斷シタリトセンカ大錯誤ニ陷キレルノ譏リハ免レ兼ヌヘシ即チカカル即斷ラ下ストキハ二種ノ信教徒各地ヲ通シテ齊一ニ散亂シ混住セルノ事實アレヤ否ヤヲ顧慮

セサルノ誤謬ニ陷キレルモノト言フヘシ其研究ハ二色ノ球ヲ容レタル二袋ニ就
キ其袋内ノ球カ層ヲ成セルヤ否ヤヲ顧慮セス隨時二袋ヨリ各一球ヲ振出スカ如
キ方法ヲトレルニ譬フヘキモ此比喻ハ實際ヲ穿テルモノトシテ適切ナラス詳言
スレハ其袋内ノ球ニ就キ實際ハ隨時一色限リノ球ヲ一攫ミトシテ投入セリトノ
比喻ヲ設クヘク從ヒテ又袋内各色球ハ層ヲ成スヘク二色ノ球交互ニ一ツ一ツ混
亂存在スルカ如キコトナシトスヘキナリ之ヲ現象ノ實際ニツキテ言ヘハ地方ニ
ヨリ主トシテ加特力教徒住メルアリ或ハ其住民主トシテ新教徒ナルアリ從ヒテ
單純ニ二袋二色球タクノ振出シ頻稀ヲ究ムルノミニテハ一色球限リノ組合セ及
混色球組合セノ比較頻稀トシテ實際婚姻ノ分配ニ符合スヘキモノヲ即斷シ兼ヌ
ルハ初メヨリ明カナリ一色球限リノ組合セ實現數ハ算定ノ結果ヲ紊スヘキ何等
ノ事由ナキモノトシテ豫期セル數ヨリモ遙カニ頻繁ナルヘシ。

上述ノ如キ一研究ニ加ヘラルヘキ非難ハ夫婦婚姻年齡ノ組合セニ關スル研究
ニ對シテモ一様ノ程度ニ於テ加ヘラルヘシトスルヲ得ス蓋シ男女各年齡級相互間
ニ於ケル組合セ實現ノ見込ハ計算上ノ蓋然數トシテ先件ノニ豫期シ得ヘキモノニ

全然一致スヘシトナシ兼ヌルハ素ヨリナルト共ニ大多數觀察地域ノ事情ヨリセハ大體ニ之ニ對シ著シキ相違ヲ呈スヘシトスヘキ特別理由ヲ發見シ難キヲ以テナリ
 以上述ヘ來レル主旨ニヨリ本邦婚姻統計ノ材料ニツキ研究スルコトトシ先ツ婚姻ノ可能總回數ヲ窺ハシムヘク又大體ニ能婚無配偶者ト想定シ得ヘキモノノ年齡別一班ヲ問フニ明治四四年刊行日本帝國人口靜態統計ニヨレハ明治四一年末本邦府縣及北海道ニ限ルノ現況ハ左表ノ如シ(動態統計ニヨレハ滿一五歲以下ニシテアリテ然リサレト其數サ遠多カラサルヲ以テ今姑ラ之ヲ不問ニ付ス又本計數ハ伊豆青ヶ島ノ一部材料ヲ含マサルモ其數少ク大局ニ影響セサルヲ以テ姑ラ之ヲ問ハス)

本籍人口無配偶者年齡階級別

出生年次	年 齡	男		女		出生年次	年 齡	男		女	
		男	女	男	女			男	女		
明治二二—二六	一五—二〇	二、三三、七六	一、九六、五九	安政六—文久三	四一—五〇	二、五七、〇〇	五〇—五五	三、〇六、五五			
同 二七—三一	二一—二五	一、七九、八七	一、一五九、二三	安政一— 五	五〇—五五	二、九〇、三七	五五—六〇	三、九一、六六			
同 三二—三六	二六—三〇	九、九七、九	六、六六、〇九	嘉永二— 六	五五—六〇	三、七五、二三	六〇—六五	四、七九、九三			
同 三七—四一	三一—三五	八、一、三〇	四、一四、三六	弘化元年以前	六〇以上	八、一五、五三	六五—七〇	一、五八、一七			
同 四二—四六	三六—四〇	三、四四、〇六	三、八八、九		七〇以上計	七、八七、六六	七〇—七五	七、五九、三三			
同 四七—五一	四一—四五	三、三、〇三	三、四四、八		七五以上計	七、八七、六六	七五—八〇	七、八七、六六			
明治元—明治元	四六—五〇	三、三、〇三	三、四四、八		八〇以上計	五、六四、八三	八〇—八五	五、六四、八三			

カクテ例令ハ三五乃至四〇歳級ノ一婦人カ二〇乃至二五歳ナルモノ以上ノ九年齡級中何レカ其一ニ屬スル一男子ト婚姻スルノ適遇ハ是等諸年齡級構成員ノ婚姻能力アル男總數ニ對スル比ニヨリ決セラルヘシ從ヒテ右男總數換言スレハ婚姻ノ總可能回數ヲ百ト立ツル場合各年齡級ニ歸スヘキ適遇ノ割合ヲ前表ニ本ツキテ計算スルトキハ其結果ハ左表イ行ニヨリ示シ得ヘク又ロ行ノ比例數ハ明治四一年分日本帝國人口動態統計比例婚姻ノ部第六ヨリ拔萃シ四拾五入セル所タリ。

イ、適遇	10—15歳	15—20歳	20—25歳	25—30歳	30—35歳	35—40歳	40—45歳	45—50歳	50—55歳	55—60歳	60—65歳	65—70歳	70歳以上
五乃至四歳ノ婦人ノ實際婚姻メタル分配	10.7	12.4	10.4	6.4	5.7	5.5	5.2	4.9	4.5				
ロ、五乃至四歳ノ婦人ノ實際婚姻メタル分配	1.2	5.5	14.3	21.8	24.5	25.9	10.2	4.3	2.3				
從ヒテ諸適遇ナ一ト立ツルハ實際分配ノ之等ニ對スル比乃チ傾向係數ハ	0.03	0.11	1.34	2.25	2.10	2.21	1.0	0.46	0.14				

最終縱行ニ掲ケタル數列即チ婚姻ノ傾向係數トモ稱シ得ヘキ數ハ三五乃至四〇歳ナル一婦人カ各年齡級ノ一男子ト結婚スルノ傾向分配ヲ先件的ニ示スモノト言ヒ得ヘシ之ニヨリ明カニシ得ヘキ所ニヨレハ三五乃至四〇歳ナル婦人ハ第

一ニ一級年長ナル年齡級ノ一男子ト婚姻シ次ニ二級年長ナル年齡級并ニ同年齡級ノ一男子ト婚姻スルノ傾向アリ後ノ結果ハ婚姻數ノミニ付年齡別ノ分配ヲ問フ場合ノ結果ト反對ナルコトヲ見ルヘク三級年長ナル年齡級男子ト二級年若ナル年齡級男子トノ關係比較ニツキテモ同様ナル相違ヲ看取シ得ヘシ而シテ右ノ研究方法ハ右ノ如キ特定年齡級ノ婦人ニツキテノミナラス各年齡級ノ女又男ニツキテモ應用シ得ヘキハ謂フ迄モナキコトナレト今一一之ヲ研究セス。

サレト又一步ヲ進メテ考フルニ無配偶者年齡別ノ計數ハ明治四一年末ノ狀態ヲ示シ婚姻年齡別ノ計數ハ同年中ヲ通シテ發現セル結果ヲ示スモノナレハ後者ニヨリテ示サル、一年齡級結婚者ハ悉ク同年齡級ノ前者中ヨリ起ルト認ムル能ハス一例ニヨリテ之ヲ明カニセンニ同年末ニ二〇乃至三〇歳ナル者ハ明治一七乃至二一年中ニ生レタル人ナルモ同年内ノ結婚者ニシテ同年齡級ニ屬スル者ノ出生年次ハ明治一六乃至二〇年ニアリ從ヒテ又明治四一年末ニ同年齡級ニ計入セラレタル無配偶者換言スレハ明治一七乃至二一年ノ出生者カ婚姻スル場合二〇乃至二五歳ノ婚姻年齡級別ニ按排セララルハ一部分明治四一年内ニ存スル

ト共ニ他ノ一部ハ翌年内ニ存スヘシ今此事情ヲ斟酌シ前ト同様ノ研究ヲ遂ケ前研究ノ結果ヲ確カメ又ハ矯ムルコトトセンニ先ツ右兩年度分帝國人口動態統計實數第四表ニヨレハ兩年中三五乃至四〇歳ノ女子ト結婚セル男子ノ年齡級別ハ次表ニヨリ示シ得ヘシ

	10—15歳	15—20歳	20—25歳	25—30歳	30—35歳	35—40歳	40—45歳	45—50歳	50—55歳	55—60歳	60—65歳	65—70歳	70歳以上	總數
明治四一年	1,231	2,371	1,632	8,631	22,273	30,631	22,631	12,631	2,631	2,631	2,631	2,631	2,631	135,333
同 四二年	1,151	2,371	1,790	12,731	22,273	22,631	12,631	2,631	2,631	2,631	2,631	2,631	2,631	120,000
二年計	2,382	4,742	3,422	20,362	44,546	53,262	35,262	15,262	5,262	5,262	5,262	5,262	5,262	255,333
同 比 例	1・7	3・6	2・6	15・0	33・3	39・3	26・3	11・3	4・0	4・0	4・0	4・0	4・0	100

カクテ右ノ比例ヲ各年齡級ノ適遇ニ照シ前ト同一ノ算法ニヨリ婚姻ノ傾向係數ヲ算出スレハ次表ノ如キ結果ヲ生シ大體ニ前研究ノ結果ト一致スルヲ見ル

	10—15歳	15—20歳	20—25歳	25—30歳	30—35歳	35—40歳	40—45歳	45—50歳	50—55歳	55—60歳	60—65歳	65—70歳	70歳以上
0・0	0・0	0・0	1・7	15・0	33・3	39・3	26・3	11・3	4・0	4・0	4・0	4・0	4・0

以上ハ一性一年齡級ニ屬スル一人婚姻スルモノトシテ其人ニ歸スヘキ適遇ノ間ヘルモノナルモ吾人ハ更ニ進ミ年齡ノ特殊組合セニヨル一夫婦ノ適遇ヲ尋ヌルコトトナシ得ヘシ今假リニ二〇歳以上ノ男子ト一五歳以上ナル女子トヲ考量

ニ入ルルトキハ婚姻ノ總可能回數ハ前出無配偶者年齡別統計ヲ本トシ $563,482 \times 769,3842$ 概數トシテ $563,500 \times 769,400$ 乃チ四一七九二一九〇百萬ナリトナシ得ヘシ
 カクテ左ノ三婚姻年齡組合セヲ究ムルコトトセハ其可能回數ハ夫等年齡級ニ該當スヘキ無配偶者數ヲ本トシ左ノ如ク表示シ得ヘシ

男 女

イ、 一五—二五歲	二〇—三〇歲	39389 × 1139122	其概數	一、二七六、二百萬
ロ、 二五—三〇歲	三〇—三五歲	692301 × 1139122	其概數	六、三八九、百萬
ハ、 三〇—三五歲	三五—四〇歲	582301 × 663094	其概數	三、八六、百萬

從ヒテ「イ」ナル組合セニハ $\frac{1187861 \times 100}{42792190}$ 乃チ總可能回數ノ二六%同様ナル計算ニ

ヨリ「ロ」ナル組合セニハ一五%「ハ」ナル組合セニハ〇九%歸スルヲ見ル然ルニ實際婚姻ノ分配ヲ伺フトキハ前出二ヶ年分「帝國人口動態統計」實數第四表ニヨルニ明治四一年中ノ婚姻數四六一二五四翌四二年中ノ婚姻數四三七八八二其計八九九一三六中

「イ」ナル組合セ	84,539 + 89,442 = 185,001	乃チ婚姻總數ノ三・五%
「ロ」ナル組合セ	26,370 + 25,998 = 51,608	同 五・七%
「ハ」ナル組合セ	23,477 + 22,557 = 46,034	同 五・一%

ナリシヲ以テ「イ」ナル組合セノ發現ハ一見「ロ」ナル組合セニ比シ四倍弱「ハ」ナル組合セニ比シ四倍餘ナルカ如キモ今之ヲ右三組合セノ適遇ニ照シテ察スルコトトセンカ

適遇	組合セ「イ」	組合セ「ロ」	組合セ「ハ」
實際分配	二・六%	一・五%	〇・九%
	三三・五%	五・七%	五・二%

ナルニヨリ之ヲ本トシ適遇ヲ一ト立テテ其傾向係數ヲ算定スレハ組合セ「イ」七九組合セ「ロ」三八組合セ「ハ」五七ノ結果ヲ生ス詳言スレハ新夫二五乃至三〇歲新婦二〇乃至二五歲ノ組合セニヨレル婚姻ハ新夫三〇乃至三五新婦二五乃至三〇歲ナル婚姻ニ比シ發現ノ傾向甚シク劣レリトスル能ハス其係數比較上二組合セノ婚姻實數比較ノ際ニ於ケルカ如キ大懸隔ヲ伺ハシムルコトナシ又新夫三〇乃至三五歲ナル者ニツキ其配偶者ノ年齡級別ヲ我邦統計上ノ實際分配ニツキテ察スルトキハ第一「ニ」二十歲乃至二十五歲ノ女子續テハ二十五歲乃至三十歲ノ女子ヲ（明治四一年分ノ帝國人口動態統計）比例婚姻ノ部第六ニヨレハ其割合右年齡級ノ新夫百ニ付三八七（及三四・五）タリ而シテ有一年分ノ結果特例タラサルユトナ明カニスルノ一例トシテ明治三七年中ノ結果ヲ示セハ同様ニ三九（最モ多ク娶レル）（高野博士著統計學研究）ヲ見ルモ其婚姻ノ年齡別組合セヲ之カ可能數ニ照シテ考フルトキハ其順位轉倒スルコトヲ見ルヘク

三〇乃至三五歲級ノ男子カ其以下ノ二年齡級(每五歲別トシテ)ニ屬スル男子ト其趣ヲ異ニシ一年齡級歲若キ妻ヲ迎フルコトヲ後ニシテ特ニ二年齡級モ違ヒシ若キ女ヲ其妻ニ選フノ傾向アリトハ議シ難キコトトナルヘシ。